

住民自治組織等に関するグループワーク振り返り

・・・第8回丸子地域協議会（令和6年11月28日）の意見まとめ・・・

● 諮問案件 丸子地域の住民自治組織の役割と今後の在り方について

①設立からこれまでの住民自治組織の活動の成果について

グループ1	<ul style="list-style-type: none">自治会では出来ない自治会の枠を超えた取り組みができた。（自治会では用意が難しかった見守り活動用のベストを購入した）学校とのつながりができた。（丸子中央における学校支援、本会における子供の明日を考えるセミナー）地域とのつながりがより深くなった。
グループ2	<ul style="list-style-type: none">ファーストビル1階フリースペース「あったまるこ」（9時から5時まで自由に使えるコーナー）。コーヒークラブ、修学館の高校生が「あったまるこ」を盛り上げる企画（小中学生集めてボーリング大会等）、壁にギャラリー。開かれたスペースを提供している。子どもの明日を考える集い→毎年あれだけの良い講演会をやっている。もっと市民の人に知ってほしい。地区防災の講演会とか避難誘導、避難所の設営（今年は塩川小学校で避難所の運営訓練）、内村ダム見学会丸子中央地区会議の駅前祭り→もっと市民全体で盛り上がる形にできるのでは。長瀬地区会議の夏休み学習会、学習支援。長瀬消防夏祭り。塩川地区会議は絶滅危惧種オオルリシジミの食草（クララ）を育てている。認知症の方の支援ということでオレンジカフェ。「サロン塩川」という拠りどころの場所を作って集まるようになったみたい。
グループ3	<ul style="list-style-type: none">丸子まちづくり会議は、モデル地域として立ち上がった。教育部会・交通部会・防災部会を立ち上げ事業化を図ってきた。教育部会としては地域で子供を育てていくという事が一番大切という事で公演会やワークショップ等を開催して、住民がどうやって子供の安心安全を守っていきましょうかということについて当初から継続中防災部会は、気候変動で色んな災害がおこっていますし実際におこっていますしそこに地域防災講演会を開催。交通部会は、地域協議会と連携し交通弱者の足確保を協働で進めてきた。循環バスからデマンド交通に転換してきた。中央と長瀬と塩川3地区会議が立ち上がっていて、地域の特徴をいかして地域に沿った活動をしていただいている。
グループ4	<ul style="list-style-type: none">うまく機能できていない丸子まちづくり会議事務所を丸子地域自治センター北庁舎からファーストビルへ移した。電気が点いているだけで使い道がなかったファーストビルのスペースを活用して事務局を置いたことで、常時丸子まちづくり会

	<p>議の顔も見えるし、子どもやお年寄りが来て色々使えるようになった。(放課後の居場所、珈琲サロン、その他イベントで使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉部会：「子どもの明日を考える集い」を定期的にセレスホールで行っている。 ・防災部会：各地区で防災関係の講演会を行っている。 ・教育部会：ずっと長野大学の先生に講演していただいている。 ・交通部会：循環バスについて地域協議会とタイアップしてきた。 ・総務部会：定期的に出している会報。 ・スマホ教室、高校生が1対1で操作教えてくれて良かったと聞いた。年代を超えた交流ができる場所は地域として大事。
--	---

②地域課題を解決してきた取組や地域との連携事業について

グループ1	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会だけでは出来ない課題、自治会の枠を超えた取り組み(自治会では資金不足で変えなかった見守り活動用のベストを購入して活動した) ・自主的に住民自治組織への参加やイベントへ参加する気持ちを育む。 ・学校とのネットワーク (コミュニティスクール)
グループ2	
グループ3	
グループ4	<ul style="list-style-type: none"> ・防災：塩川地区で自治会と共に4回(6月・7月・9月・10月)防災訓練を実施。防災コアとして中心になる人の研修をした。4回目には塩川小学校を使い避難所開設をする大きなイベントを行った。今回は石井地区だけだったが、塩川地区内において持ち回りで来年以降も継続して防災意識を高める。(防災訓練直後だったおかげで、ホクト工場火災の際に防災倉庫のものを消防団員に提供できた)

③合併前後の自治会や地区連合会の活動の変化や課題について

グループ1	
グループ2	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域性がある。同じ地区連の中でも価値観や考え方がまちまち。そういった中で、統一して何かやりましょうというのはなかなかできない。特に依田の地域性として独立性がかなり強いのではないか。今後、役員が替わっていけば変わるかもしれないが、今のところまだそういった足並みは揃わない。 ・子どもの行事も、地区によっては子どもがほとんどいないためやらなくなった。 ・コロナをきっかけにやらなくなった行事がそのまま復活しない。 ・自治会役員のみ手が少ない状態なのに、まちづくり会議に人を出せないという考え
グループ3	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長と地区連と地区会議連携は必要だけど役が重なると大変。 ・当初住民自治組織立ち上げた人たちが代替わりして当初の趣旨が分からなくなってきて難しいところがある。
グループ4	<ul style="list-style-type: none"> ・町組自治会が長瀬中央自治会に名前変更。飯沼自治会から北原自治会が新設。 ・全体的には社会情勢の変化として人口が減って自治会に入る人も減ってきた。それで自治会自体が機能しなくなってきたという中で、少し大きいグループで考え

	<p>ていけばいいんじゃないかという事が住民自治組織の設立の意味。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自治会に入らない・自治会費を払わないだったら、自治会で掃除をしているんだから、ゴミを捨てるな、水も流すな」のような考えの人もある。そうすると、外から来た人の中には「面倒くさいから関わらないでおこう」みたいな人もいると思う。 ・昔は、会社へ勤め始めた頃になると「消防団に入れ」と言われた。そうすると知らない人を知って、酒を飲んだり交流があった。今は消防団員に入る人が減って交流もほとんどなくなってしまった。
--	---

④住民自治組織が今後役割を担うことが可能な分野について

グループ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは学校支援だと思う。子どもの学校だけではない居場所づくり（コミュニティスクール） ・地域防災活動
グループ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・住民自治組織は自治会が単一でやっている事業以外の中で効率的に地域の事を考えてやっていくのが一番良いのではないか（子どもの講習会をいくつもやるとか、防災関係も遊びを交えてやるとか） ・自治会の代わりに何ができるかという、防災の関係や、子育ての関係そんなようなことですね。
グループ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・本来は自治会がする仕事とダブっている。自治会と同じような事はまちづくり会議ではやめたほうがいい。市が制度設計、方向性をきちんと示してこなかった。 ・人口が減っている西内と東内の自治会運営が立ちいなくなる。一つの地区だけでは大変なので、まちづくり会議と西内と東内で人権学習会、防災など各自治会ではできないような事をフォローする。自治会だけではできないことを提案する。自治会とまちづくり会議共同で協力してやっていくのが今後のあり方。 ・担い手がいなくて自治役員ができないという時にまちづくり会議が入って文書配布やってもらって、目論見もまちづくり会議の中で決めて、地域のことを一緒に考えましょうということも中にはある。書類作りとかまちづくり会議で担える部分は担って自治会の役割を少しでも軽減することが今後重要。 ・これから先どんどん人が少なくなってくれば当然自治会自体が成り立たないってことが出てくるとなるとまちづくり会議をその自治会に縛られることなく町として色んなアイデアとか意見ある人が地区に縛られずに集まれる会になっていかないと成り立っていかない。
グループ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ドドンコ等、自治会での祭り参加が減っている。自治会より大きい枠組みの住民自治組織での参加。

⑤地域協議会と地域振興課が住民自治組織へすべき支援について

グループ 1	
グループ 2	
グループ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会は市の諮問機関。地域協議会で丸子地域としてこういう事業はどうか

	<p>んだろうという事をまちづくり会議に投げかけて連携していく活動が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の長い自治会と比べて、住民自治組織はまだまだ発展途上の組織。「成果をあげている素晴らしい住民自治組織」となるのはなかなか難しいと思う。立ち上げた以上、少しでもすそ野を広げて自分たち一人一人が地域を作っていくんだと意識してもらわないといけないが、市民がまちづくり会議の役割をまだまだ知らない。行政として知ってもらう努力が必要。
グループ 4	<p>(情報共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会と自治会と住民自治組織で話す機会、理解し合う機会があるべき。 ・住民自治組織から地域協議会で話して欲しい事を上げてもらったり、逆に地域協議会から住民自治組織へ提案する事が考えられる。 ・市民の住民自治組織に対する理解が低い。利用できる場所や連絡先について周知が必要。

【その他意見】

グループ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・上田の川西のほうでは地域住民や商店が一緒になってホームページを作って防災マップや地域催しスケジュール、商店街の店舗紹介を掲載している。まちづくりで作ってるのはすごいなと思う。これからの時代はスマートフォンが一つの情報ツールになっている。それも含めたくて地域住民に活用してもらおうような手段をこれから考えていかないと。 ・まちづくり会議の組織の在り方について、各自治会の協議員が中心ではなくて色々な団体の各種団体の長（安協やPTA等）を入れて組織をしていかないと。地区ごとに意見が分かれてしまうから、地区を超えた団体の長が来る必要がある。
グループ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・内村地区と依田地区がまちづくり会議に入っていない。活動の内容をアピールできれば、意見を変えて動いてくれるのかなと思います。 ・丸子全体でやるという行事はあまり地元には響かない。小さな所を対象にした方が出やすい感じはする。あまり大きくなると他人事になる。→小学校単位くらいが良い。 ・この組織自体を知らない人が沢山いると思う。どうやって広めていったらいいのかというのが課題。
グループ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や出前講座など良い取り組みだが理事しか集まらない。良い取り組みなのに広がらないのが課題。
グループ 4	<p><まちづくり会議の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・依田地区と内村地区が加わっていない。 ※最初にまちづくり計画を作った時は、地区会議を全部立ち上げると本会はなくなるような動きだった。しかし、今の考えとしてそれはない。統括している所がなくなれば繋がりがなくなってしまう。 ・長瀬の旧 JA の借りている場所の活用。 ・自治会長経験者が関わってくると良い。